

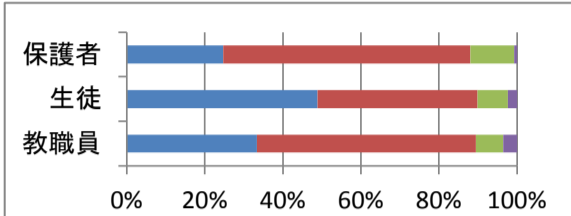
平成29年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

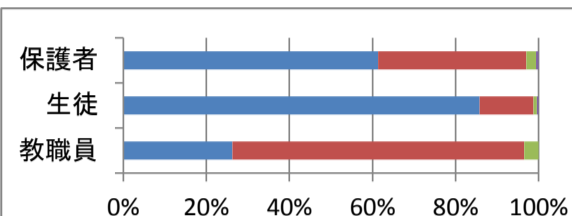
1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。



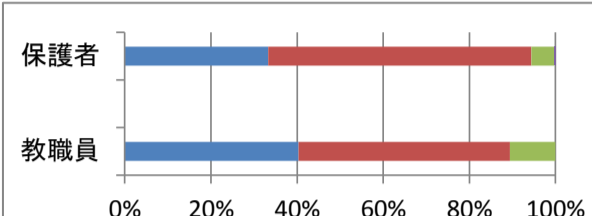
2 友達への思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。



3 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

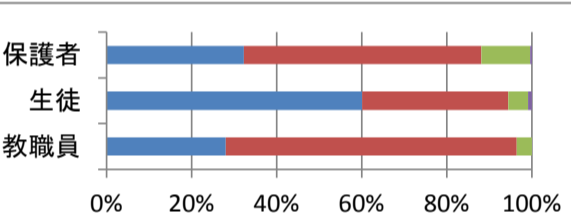


【学校から】
 ○一人一人を大切にされた指導については、担任と生徒による生活ノートを活用、毎月のきずなアンケートの実施、各学期末の教育相談が効果的に実施されているため、昨年度同様に「4」「3」（そう思う）の割合が高い。今後もきめ細かな取り組みを行っていききたい。
 ○友達への思いやりについて「4」「3」（そう思う）の生徒回答状況は昨年度同様に高かったが、保護者のは割合は低かった。SNS等についての使用が社会問題として深刻化しているためと考えられる。情報モラル教育の更なる充実を図りたい。
 ○豊かな人間性を育む心の教育の充実にについては、保護者、教職員ともに高い割合であった。例年実施している学校からの便り・学級通信による啓発、心かがやけ月間に実施している道徳公開授業（全クラス）を行った成果と考える。さらに今年度は市指定道徳モデル校として研究を深めた。今後も心の教育の充実を進めていきたい。

②確かな学力を育む教育の推進

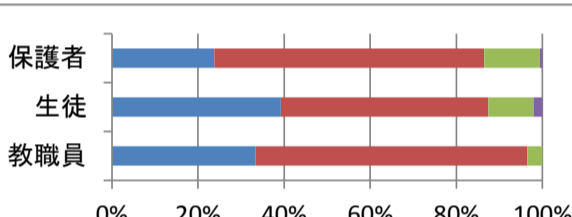
4 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。



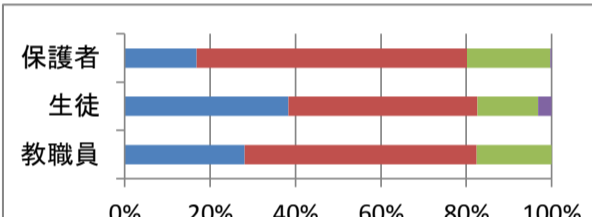
5 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



6 ICT活用

先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。

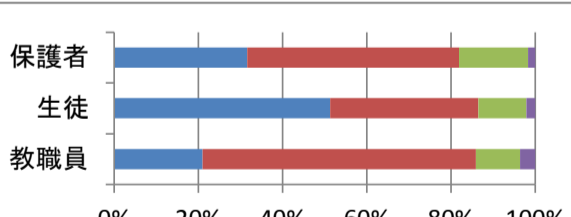


【学校から】
 ○意欲的な授業の取り組みについて「4」「3」（取り組んでいる）は、生徒及び教職員の割合が昨年度より高かった。今後は生徒の頑張りを保護者へ紹介する等の啓発を工夫し、更なる意欲向上を図っていききたい。
 ○わかる・楽しい授業づくりについて「4」「3」（取り組んでいる）は、生徒、保護者、教職員ともに「取り組んでいる」と回答した割合が約8割を超えている。教職員の教材研究と研究授業及びステップアップサポーターを活用した授業改善研修等の成果と考える。一方で勉強が「わからない」「楽しくない」と回答した生徒が13%であった。個別指導等や指導法の工夫をさらに図っていききたい。
 ○ICT機器の活用について「4」「3」（取り組んでいる）は、昨年度より若干改善している。これは、ホワイトボードの活用等、ICT機器を効果的に使用している成果と考えている。今後も活用方法等を研究し、視覚的でわかりやすい授業づくりの推進に努める。

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり

子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。



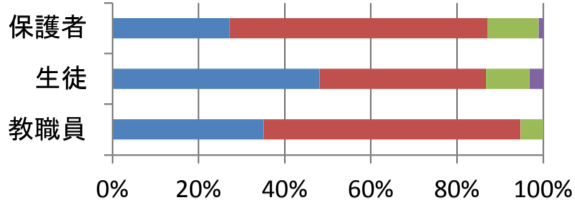
【学校から】
 ○学校からの便りや、学校保健委員会等の活動を通して生徒の健康づくりへの意識が高まり、生徒及び保護者・教職員ともに「4」「3」（そう思う）の割合が昨年度より高くなっている。
 ○保護者への効果的な啓発を取り組み、今後とも保健体育、健康・給食等の実践を通じた指導を充実させることで生徒の健やかな体づくりを充実させたい。

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

②特別支援教育の推進

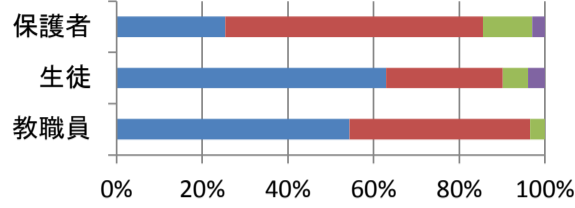
8 児童生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。



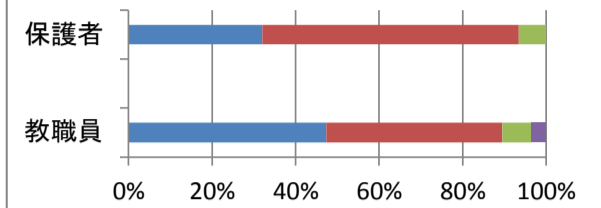
9 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。



10 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。



【学校から】

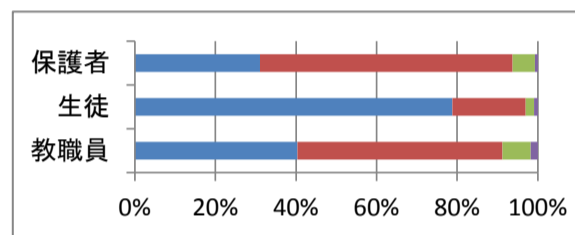
○生徒理解及び相談対応については、「4」「3」(充実している)と回答した生徒の割合が前年度より高くなっている。また、学校の支援体制については、「4」「3」(そう思う)と解答した保護者の割合が前年度より高くなっている。これは、教職員の組織的な対応、生活ノートによる担任の励まし、学校からの便りにおける啓発、関係諸機関との連携等により、生徒は自己肯定感を高めることができ、安心して学校生活を過ごすことができていると言える。
○不登校生徒に関しては、改善に向けて学校・保護者・関係諸機関等との組織体制づくりを充実させる。

①子どもたちの身近な安全対策の充実

②最適な学習環境の整備

11 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

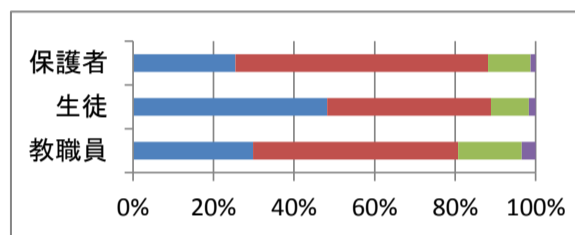


【学校から】

○昨年度の熊本地震より防災教育を含めたマニュアルの見直し及び避難訓練の効果的な実施に取り組んでいる。
○事故防止等については、生徒・保護者ともに「4」「3」(そう思う)と高い回答であったが、事故等が発生した場合の対応について全教職員で共通理解を図った。今後も日ごろから点検等を計画的に取り組み安心・安全な学校づくりに努めたい。

12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。



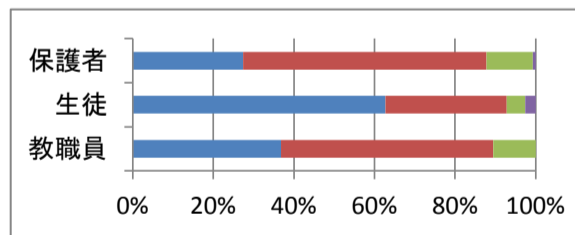
【学校から】

○定期的な施設点検及び補修、全校で実践している無言掃除、環境緑化活動の充実の成果と考える。今年度からトイレのスリッパを導入したため、生徒の「4」「3」(そう思う)の回答が昨年度より高くなったことが考えられる。今後も組織的に施設・点検を行うと共に衛生面を整える体制づくりに取り組み、最適な学習環境の整備に努めたい。

③家庭・地域社会との連携強化

13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。

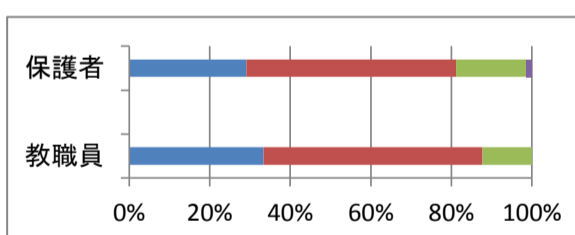


【学校から】

○学校からの便り、安心メール、学校HP、PTA新聞、PTA総会や各種団体の会合等、あらゆる機会を通して情報発信を行うことにより教育方針・目標が保護者及び生徒へ浸透している。特に今年度は、「4」「3」(わかりやすい)と回答する生徒の割合が前年度より5%高くなっている。
○家庭や地域との連携協力の充実状況については、教職員と保護者の間に差がみられるので、授業参観、懇談会、学校行事をより開かれたものにするように工夫し、保護者との連携強化を図る手だてを講じていきたい。

14 家庭や地域との連携協力

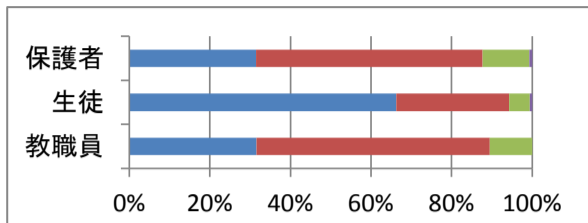
学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。



⑧本校の教育

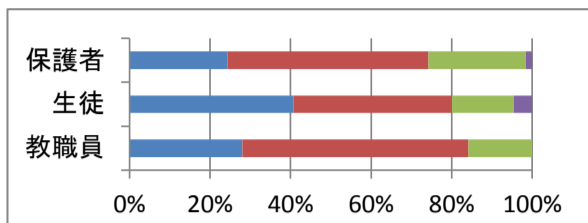
15 あいさつ

生徒は、家庭や地域、学校でよく挨拶をしていると思いますか。



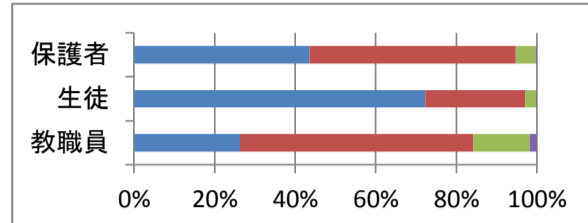
16 家庭学習

生徒は、家庭学習に取り組んでいると思いますか。



17 きまりを守る

生徒は、学校や社会生活のきまりを守っていると思いますか。



【学校から】

- あいさつについては、生徒・保護者・教職員の8割以上が「4」「3」（できている）と回答している。さらに気持ちのよいあいさつができるように学校全体として雰囲気づくりを努め、明るく活気のある学校を推進していく。
- 家庭学習については、昨年度に比べて「4」「3」（そう思う）の回答が高くなった。これは、各教科担当が復習等の自学ノートの取り組みの成果と考える。今後も生家庭学習の習慣化と重要性を共有し、有効な支援の在り方を探っていきたい。
- きまりについては、全体的に守れているとする回答であった。今後も全校生徒により良い集団生活について考える場を取る等の指導の工夫を行うことで落ち着いた学習環境づくりに努める。

来年度の具体的な取り組みについて

- 「豊かな心をはぐくむ教育の推進」については、道徳の授業改善や体験活動の充実を図るとともに、保護者や地域の方々、校区内の小学校とさらに連携協力し、地域ぐるみの行事や活動に工夫を加え、家庭・地域一体となって心の教育を推進していく。
- 「確かな学力を育む教育の推進」については、熊本市学力検査や全国学力学習状況調査結果を分析し、きめ細かな指導の工夫改善に努める。また、ICT機器の効果的な活用を行う等の授業力向上に努め、「わかる・楽しい」授業の実践を図る。さらに、学習意欲を高め、学んだことがきちんと定着するように家庭学習の習慣化を図る。
- 「健やかな体を育む教育の推進」については、運動に興味が高い生徒とそうでない生徒に二極化している。また、自主的に運動に取り組むことを苦手としている生徒が多い現状にあるので、体育の授業、部活動だけでなく長期休業中に生徒自ら体力の向上に取り組むように指導する。給食の時間の指導や給食便り、懇談会等を通して食育の重要性を啓発する。保健面については、インフルエンザ等に対応するように手洗い・うがい等、基本的な生活習慣の確立を図る。
- 「いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実」については、学校と保護者の連携協力と不登校対策委員会を活性化させ、不登校改善へ向けての組織的な対応を図る。
- 「子どもたちの身近な安全対策の充実」については、安全点検を徹底して設備の安全確保をするとともに、日常の用具の使い方や生活の仕方等の生徒指導を充実させる。また、安心メールを一層活用し、保護者・地域と連携して安全を確保する。
- 「最適な学習環境の整備」については、年間計画等の整備及び組織で対応できる体制づくりを推進する。
- 「家庭・地域社会との連携強化」については、本校の教育目標方針をさらに分かりやすく、学級・学年・学校便り学校HP、PTA新聞、諸団体会合などあらゆる機会を通して情報発信を行っていく。
- 「本校の教育」については、毎時間の授業の充実のための教材開発を続けていくとともに、課題克服を考えた個別学習の充実と厳しい状況の生徒への生活習慣の確立など、個に応じた対応を図っていく。また、教職員や生徒会だけではなく、PTAや地域の諸団体と連携しながら基本的な生活習慣のキャンペーンの実施などを通して、挨拶、マナーなどの規範意識を育てる指導の徹底を図る。

学校関係者評価

- 生徒と教職員の信頼関係を大切にしていることが今年度の学校経営重点計画及び実践より理解できた。
- 授業参観より、全校生徒の表情が良く落ち着いた雰囲気の中で授業に取り組んでいる様子がわかった。また、教職員の授業への工夫も感じた。
- 特別支援学級の授業参観より教職員と生徒の信頼関係及び充実が伝わった。
- 学校だより及び学級通信の取り組みは素晴らしいものである。今後も地域等へも効果的に情報を発信してほしい。
- 部活動等の全国・九州・県大会等の活躍は生徒の頑張りや教職員の指導の成果である。
- 校舎施設の老朽化（非常階段等）の耐久性が心配になった。
- 地域の自治会・青少協等の連携をさらに充実させ、今後も開かれた学校づくりを推進してほしい。